

近況——28歳から81歳まで

中川久定

私はいつも、誰に対して書いているのだろうか。自分自身に対して——自分のうちであって、自分が表現する言葉をじっと見つめ、その視線に耐えられないものは直ちに切り捨て、自らのうちに立ち現れてくる考えを、自分自身に対して書いているのである。

私が名古屋大学教養部から京都大学文学部に助教授として移ってきたあと、『文学部研究紀要』に、1973年3月と1975年3月と、2度にわたって、フランス18世紀の作家ドニ・デイドロ最晩年の、文学的遺書とも称すべき大著『セネカ論』についての論文を発表した。

ほどなくして私は、巻き紙に墨書された吉川幸次郎先生からのお手紙を頂戴した（かつてはフランス文学科の学生であり、吉川先生のご退官後しばらくしてから京大に勤めることになった私は、それ以前にも、当時も、中国文学講座の教授であった吉川先生とは、なんのつながりもなかった）。そこには、次のような趣旨のことがしたためられていた。——私は君の論文を読んだ。高度に専門的な事柄が、誰にでも分かる平明な言葉で書かれていた。本当の学者でありうるための第一の要件は、すべてを誰にでも分かる言葉によって書く、ということである。自分は確信している。君がいる限り、京大文学部は大丈夫である、と。この書簡に接した時、私は44歳であった。

それよりずっと以前にさかのぼる。大学院修士課程の学生であった私は、関西日仏学館で、館長グロボワ先生から週一回、午前中の

授業を受けていた。毎回書き取りがあり、厳しく採点されているうちに、最後に残った受講生は私ひとりになった。それから学期の終わるまでの1か月間、土曜、日曜を除き毎朝、私だけに3時間の演習が行われた。狭い教室で、辞書『リトレ・エ・ポージャン』だけを与えられ、課題論文を書かされるのである。その題を1つあげるとすれば、「事実 (fait) とは何か」であった。翌朝には答案が返されたが、いたるところに真っ赤な斜線が引かれていた。先生は一体どんな気持ちで、この誤りだらけの答案を読まれていたのだろうか。私はその後、東京日仏学院でフランス政府給費留学生選抜試験を受けようとしていた。その私のために、グロボワ先生が書いてくださった推薦文の中には、次の言葉があった。——中川は、「精神の独創的な形 (une forme d'esprit originale)」を備えている青年である。それ故、彼を「特に強く (tout particulièrement)」推薦する、と。私は28歳であった。あれから53年が飛び去って行った。

哲学者アランの弟子であったグロボワ先生のこの評価と、吉川先生のあの文章を、かつて私はそのまま信じていたし、今もそのとおりに信じている。この2つの言葉に、私は今も支えられながら、近くフランスで出版される第4冊目の著書に、毎日手を入れている。——*L'esprit des Lumières en France et au Japon* (『啓蒙の精神—フランスと日本』) 2013年、全2巻、計850ページ、パリ、Honoré Champion社。



◎プロフィール

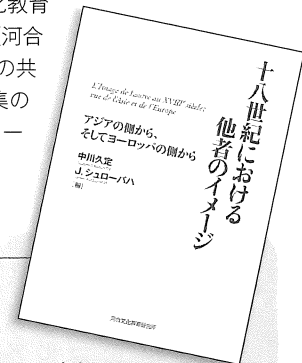
中川久定 (なかがわ・ひさやす)

京都大学文学部仏文科卒。

専攻・フランス文学史・思想史。文学博士。京都大学名誉教授。日本学士院会員。元京都国立博物館館長。元国際高等研究所副所長。元国際18世紀学会副会長。国際18世紀研究センター学術委員 (フランス、フェルネ=ヴォルテール)。研究誌『デイドロ・百科全書研究』(フランス) 査読委員、研究誌『デイドロ研究』(カナダ) 評議会委員。

18世紀フランス文学・思想の実証的比較分析を行う。1976年辰野賞 (日本フランス語フランス文学会)、1986年バルム・アカデミック勲章オフィシエ級 (フランス)、1993年京都新聞文化賞、2001年勲2等瑞宝章、2004年レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ級 (フランス)、2007年京都府文化賞特別功労賞受賞。

著書：『デイドロのセネカ論』『自伝の文学』『甦るルソー』『啓蒙の世紀の光のもとで』『転倒の島』『Des Lumières et du comparatisme』、『Introduction à la culture japonaise: Essais d'anthropologie réciproque』(フランス語原著に基づくスペイン語版、イタリア語版、ポルトガル語版あり)、『L'image de l'autre vue d'Asie et d'Europe』(éd. par H. Nakagawa et J. Schlobach)、『Mémoires d'un moraliste passable』。S・カルブ編中川久定/増田真監訳『十八世紀研究者の仕事 知的自伝』。河合文化教育研究所からも『デイドロの〈現代性〉』(河合ブックレット)、J・シュローバハ氏との共同編著で18世紀国際シンポジウム論集の日本語訳『18世紀における他者のイメージ』を刊行。



十八世紀における 他者のイメージ

アジアの側から、そしてヨーロッパの側から

中川久定 J.シュローバハ 編

四六判 6800円